

OSAKA  
UNIVERSITY  
OF ECONOMICS

# KEIDAI DAYS

大阪経済大学  
OSAKA UNIVERSITY OF ECONOMICS

2018年1月

No.47

<http://www.osaka-ue.ac.jp/>

発行：大阪経済大学広報課 〒533-8533 大阪市東淀川区大隅2-2-8 / 本紙へのご意見は、kouhou@osaka-ue.ac.jpへお寄せ下さい。(本紙記事の無断転載を禁ず)



## OSAKA 5GO!WALK

～災害に強いまちづくりは健脚から～

**開催!**



10面【キャンパス】・11面【ウォーク】に続く

晴天に恵まれた2017年12月2日(土)、本学主催「OSAKA 5GO!WALK」を主催。予期せぬ災害発生に備える「健脚づくり」を合言葉に、1600名を超える地域住民、学生が本学大隅キャンパスに集った。

このイベントは、巨大地震等の発生時、外出先で帰宅困難者となった場合に歩いて帰れる20kmを目安として、5時間歩ける健脚づくりと、普段何気なく歩いているまちを、防災という視点から見直し、まちの魅力を再発見することが目的。防災ウォーク、企業ブース、ステージイベント、シンポジウムを通して、都市型大学としての地域の防災活動と健康づくりへの寄与、学生の防災教育を目的とした産官学の連携プロジェクトだ。運営には学生約150名も参加。大盛況となった。

- 開催概要**
- ◆名称 「OSAKA 5GO!WALK ～災害に強いまちづくりは健脚から～」
  - ◆場所 大阪経済大学大隅キャンパス、ウォークコースとして東淀川区全域
  - ◆主催 大阪経済大学 ◆共催 大阪市東淀川区役所 ◆協力 大阪市東淀川消防署
  - ◆協賛 大和リース株式会社、ホーチキ株式会社、株式会社SN食品研究所、株式会社エメラス、大阪シティ信用金庫東淀川支店、関西電力株式会社、関西電力ファシリティーズ株式会社、株式会社近畿大阪銀行、株式会社鴻池組、大成建設株式会社、不二サッシ株式会社、南海電設株式会社、株式会社大阪城口研究所、大阪信用金庫、シャトー株式会社、西日本電信電話株式会社、株式会社日興商會、長谷川体育施設株式会社、株式会社フジタ、丸善雄松堂株式会社、山本化学工業株式会社
  - ◆後援 大阪府危機管理室

### 地域とともに栄える 学びの場を目指して

大阪経済大学 理事長 藤本二郎

#### ●教育環境の整備を推進

2017年7月11日に理事長拝命以来、本学を今よりも良い大学にしたい、少子化の波に抗(あらがい)、さらに成長させていきたいと日々取り組んでおります。

良い大学かどうかは、数字で測れるものではありません。卒業生や保護者の皆様、高校の先生方に「大阪経済大学に行って、行かせて、良かった」と思ってもらえること、就職先の企業様から「大阪経済大学の卒業生はバイタリティ、積極性があり将来が期待できる」と評価いただけることが、何よりも大切だと私は考えます。そのため、先生方に研究を深め、充実した教育内容を学生に提供してもらうとともに、私たち大学運営側は、学びの環境を一層整備していく所存です。

#### ●地域と共存する大学を

また、大学と地域の方々のつながりも、とても大切だと思います。12月2日、本学と東淀川区の共催により、防災と健康のイベント「OSAKA 5GO!WALK」を開催いたしました。多くの地域の方々に参加していただいたことは、誠に喜ばしい限りです。長年にわたり企業に勤務してきた経験から、私はどのような組織も、その拠点のある地域の方々と共存共栄することなくして、存続し得ないと考えています。今後も、このような公開イベントや社会人講座などを拡充し、地域の方々に大学の知を提供させていただきたいと考えています。またそのような機会が、教職員、学生にとって新たな刺激となることを切に願っております。



### 主な記事

#### contents

- (1面) OSAKA 5GO!WALK 開催
- (2面) Horizons Summer Program 2017  
アメリカンフットボール部創部50周年  
記念式典 他
- (3面) 大隅会だより
- (4・5面) ZEM-1グランプリ
- (6・7面) 広報隊 学生編集ページ
- (8面) 大阪経済大学PBLプログラム 他
- (9面) 文化オンライン、17歳からのメッセージ
- (10面) OSAKA 5GO!WALK【キャンパス】
- (11面) OSAKA 5GO!WALK【ウォーク】
- (12面) 経スボ ラクロス部・チアリーダー部・弓道部

## 卒業式・学位授与式のご案内

2017年度大阪経済大学 卒業式・学位授与式を下記のとおり挙行いたします

| 午前の部                                         |                                        | 午後の部                                          |                                        |
|----------------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------------------------|----------------------------------------|
| 対象学部：経済学部、人間科学部、<br>大学院経済学研究科、<br>大学院人間科学研究科 |                                        | 対象学部：経営学部、情報社会学部、<br>大学院経営学研究科、<br>大学院経営情報研究科 |                                        |
| 場 所：70周年記念館フレアホール                            | 場 所：70周年記念館フレアホール                      | 場 所：70周年記念館フレアホール                             | 場 所：70周年記念館フレアホール                      |
| 日 時：2018年3月17日(土)<br>10:00～(入場は9:30～)        | 日 時：2018年3月17日(土)<br>13:00～(入場は12:30～) | 日 時：2018年3月17日(土)<br>13:00～(入場は12:30～)        | 日 時：2018年3月17日(土)<br>13:00～(入場は12:30～) |

**お問い合わせ** 大阪経済大学 総務部総務課 (06) 6328-2431代

- 学生・保護者の方用の駐車場がありません。車でのご来場はご遠慮ください。
- 収容人数の関係で、保護者の方は式場内へお入りいただけません。あらかじめご了承ください。なお、同館3階の教室において、式典の模様を同時放映いたします。

2018年度

**教育懇談会**  
右記の日程を予定しております。

|    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 大阪 | 6.23(国) 受付 9:30～<br>▶大阪経済大学        |
| 京都 | 6.30(国) 受付 10:00～<br>▶TKPガーデンシティ京都 |
| 高松 | 7. 7(国) 受付 10:00～<br>▶JRホテルクレメント高松 |
| 岡山 | 7. 8(回) 受付 10:00～<br>▶岡山プラザホテル     |
| 名張 | 7.14(国) 受付 10:00～<br>▶名張シティホテル     |
| 松山 | 7.15(回) 受付 10:00～<br>▶未定           |



## FD通信

全学FD委員会では、本学の教育の質を向上させるために6月にフォーラムを行いましたのでご報告します。

## 第36回全学FDフォーラム

## 英語による授業の展開

## —その実践と課題—

●2017年6月9日(金) 16:30-18:00 B館2階 B21教室  
関西大学 国際副部長・国際教育センター長  
国際部 山本英一 教授



本学で6月26日から実施した海外の学生に向けてのショートプログラム「Horizons Summer Program」に向けて、関西大学から山本英一教授をお招きし、「英語による教授法」をテーマにお話しいただきました。

昨年7月にも同様の内容で全学FDフォーラムを開催しましたが、関西大学での最新の取り組みをお聞きし、「Horizons Summer Program」をより良いものにするため企画されました。

先進的な取り組みを目の当たりにし、プログラムに関わるメンバーからは多数の質問が飛び出し、活発な意見交流が行われ、プログラムに向けてメンバー関係者の士気が高まりました。

英語を介した授業を行うための教員研修や、ICTを活用して主体的な学びを促進させる取り組みなど、とても興味ある内容でしたが、教員負担の増加、日本人学生の英語力などの課題があることをお聞きすることができました。

今後、本学においても、英語で授業を行うことだけが目的とならないよう、海外協定校からの受入れ、そして本学学生の留学先確保に向けて、FD活動という形で支援を行いたいと考えています。

【参加者】33名(教員20名、職員13名)



創成期のリーグ資料

## ●藤田広二郎氏(当部OB会・会長)

当部は河川敷からスタートし、強くなって認めてもらいたい一心で頑張ってきました。2部では強豪チームと戦うことになります。選手たちは、どんなに辛くても諦めず、絶対に負けないという『井高野魂』を後輩につなぎ、這い上がってほしい。

## ●近藤信彰氏(当部監督)

アメリカンフットボールのルールなどが日進月歩するなか、変化してはいけないのは、社会で通用する人材を育成するという大学スポーツの本分。自身の役割を全うすることでチームの勝利が得られるという成功体験を重ね成長してほしい。



2017年6月26日(月)7月8日(土)の2週間にわたり、海外学生を対象とした、オール・イングリッシュによる短期受入れプログラム、第1回 Horizons Summer Programを開催した。本学が短期受入れプ

ログラムを実施するのは、今回が初めて。プログラムに参加したのは、外国貿易大学(ベトナム)、バシコク大学(タイ)、上海对外経済貿易大学(中国)、国立台中科技大学(台湾)から来た6

名の学生たち。彼らは6回の日本語講座に加え、14名の本学教員陣による、日本の文化、経済、社会などに関する話題性のあるテーマを扱った専門講義を受講した。

一方、本村光江教授(経済学部)の「Animal Welfare in the World」は、近年世界中で論争を巻き起こしている「動物の福祉」がテーマ。その考え方を「動物が生きていく権利」と対比しながら明らかにした。大阪府における野良猫対策についても講義した。受講生たちはそれぞれの自国の事情を情報共有しつつ、活発な意見交換を行った。

本プログラムの受講生たちは、さまざまな課外活動に参加した。フィールドトリップでは、京都・奈良・神戸での寺社訪問やさまざまな文化体験に加えて、大阪城散策や企業博物館の見学などを通して、日本への理解を深めた。



## 海外からの留学生に

Horizons Summer Program 2017

## 全英語プログラムを提供



「Nonverbal Communication in Japan」は、日本人の非言語コミュニケーションの特徴がテーマ。日本人とつきあう方法についてのヒントになるような内容だった。受講生からは「日本人と台湾人、中国人、さらにアジアや西欧の人達の非言語コミュニケーションの違いがよく分かる、すばらしい講義だった」とAndrew Samuel Waltonさん・国立台中科技大学)。「学問的で、かつ実践的な内容。今後、日本人の友人やビジネスパートナーをつくるうえで役立つと思います」と Nguyen Son Ha Anhさん・外国貿易大学)などの声が挙がった。

石原啓国際交流課長は「サマープログラムに参加する学生たちは意欲的ですね。短期間に多くのことを学んだのではないかと思います。本プログラムの主な目的は、本学学生の留学先の拡充とキャンパスの国際化です。この目的のため、海外学生に日本への理解を深めていただき、協定校などとの相互交流を促進する

とともに、本学学生のグローバルマインドの醸成を方針として挙げています。本学学生と海外学生が相互に刺激し合い、国際的な考え方や新たな価値観を獲得していくことも期待しています」と語った。



E Cafeにて

## アメリカンフットボール部 創部50周年記念式典

伝統を胸に  
新たな歴史を創る

大阪経済大学体育会アメリカンフットボール部創部50周年記念式典・祝賀会が2017年7月30日(日)正午からD館33教室で開催され、総勢250名を超えるOB・OGや連盟関係者らが列席した。開会の挨拶ではOB会会長の藤田広二郎氏が「50年前に産声が上がり、色んなことがあったが、今期のボンバーズの成績は皆さんの尽力の賜物。次の50年へと伝統をつないでいってほしい」と挨拶。続いて徳永光俊学長が、「学生主導によるオール大経大の雰囲気アメリカン

が列席した。開会の挨拶ではOB会会長の藤田広二郎氏が「50年前に産声が上がり、色んなことがあったが、今期のボンバーズの成績は皆さんの尽力の賜物。次の50年へと伝統をつないでいってほしい」と挨拶。続いて徳永光俊学長が、「学生主導によるオール大経大の雰囲気アメリカン

最後に、監督の近藤信彰氏から新チームを紹介。主将の原慎之介さん(人間科学部4年)は「沢山の人が応援してくれていると実感している。皆さんの想いを背負い、最後まで戦い抜くと決意を語った。その後、全員で学歌を斉唱し、閉会となった。





## 2017ホームカミングデー・大樟会総会、賑やかに挙行

## 大樟会だより

少子化時代、今後一層の  
バックアップを母校へ！

快晴の秋空が広がる2017年11月4日(土)、大樟祭で賑わう母校・D館21教室でホームカミングデー・大樟会総会が開催された。全国の同窓生341名が参加し、総会に続いて小谷融副学長による記念講演が行われた後、学生会館でホームカミングデー懇親会が開かれた。

新理事長を迎え、  
90周年、100周年に向け邁進！

午前11時、小林眞人大樟会副会長(32回)の司会で総会がスタート。物故者への黙祷、本学クリークラブ18名と参加者による学歌斉唱に続き、藤本二郎理事長、徳永光俊学長、田村正晴大樟会会長が式辞を述べた。

今年7月に就任した藤本理事長は「本学を今以上に良くするため、①本学の知名度を上げる②本学のファンをつくる③本学の構造改革を進める」と抱負を語った。就任後すでに企業約30社を訪問した理事長だが、遠隔地域の各支部長に対して地元の高校訪問への協力を要請した。

徳永学長は、本学のクラブ・サークル活動の成果を伝え、「準硬式野球部の試合で、現役学生と同窓生が参加し『オール大経大』で応援したことは素晴らしい」と語り、今後、現役学生・同窓生を含めての『つながる力No.1』『経済経営系私立大学におけるNo.1』をめざす」とさらなる意欲を示した。

続いて田村正晴会長が「奨学金の同窓会枠を新設し、今年度から実施した。地方から多様な学生が集う大学であり続けるための『同窓会遠隔地学生奨学金』と、家庭の事情な



学生会長館2階に場所を移し、12時45分からホームカミングデー懇親会が開かれた。

談笑が会場に響いた  
ホームカミングデー懇親会

司会の本学総務部・簡美由紀さんが高らかに開会を宣言、初めに藤本理事長が「少子化時代を迎え、大学経営は難しくなっているが、バイタリティとセンシビリティに満ちあふれる学生の育成に集中し、大学改革を進めていく」と挨拶。その後、藤本理事長、徳永学長、田村会長の3名が登壇し、景気のよい「ヨイショ」のかけ声と共に鏡開きが行われた。

続いて、徳永学長が「本学の知名度アップにつ

なれば」と思い、先日NHKの『やまと偉人伝』に出演したが、収録は1時間放送回はたった30秒だった笑」と会場を沸かせ、「乾杯！」の発声を行った。

軽音楽部OBらの「上新庄オールスターズ」のジャズ演奏が流れる中、豪華な料理が味わいつつ、しばし歓談の時が流れた。終盤には抽選会が開かれ、プレゼントの山下一佳総務部長が当選番号を読み上げると、1等には西村幸雄氏(43回)が当選。賞品はカタログギフトで、1等(3万円相当)、2等(1万円相当)、3等(5000円相当)と特別賞・



挨拶をする田村会長

により学業継続が難しい学生への『同窓会緊急修学援助奨学金』という2つの奨学金制度だ。金額の多少に関わらず長期的な寄付をお願いしたい」と協力を仰いだ。

最後に、出席の来賓が紹介され、セレモニーはつぎがなく終了。引き続き、小谷副学長による講演会(別掲)が開かれた。

## 感謝状を贈呈された方

- ・本学前理事長 佐藤 武司様(30回)
- ・前奈良支部長 西本 集一様(23回)
- ・前愛媛支部長 故 眞鍋 一美様(32回)
- ・前熊本支部長 眞鍋 忍様(35回)
- ・前 監 事 大西 健介様(35回)
- ・前 監 事 秋山 治信様(37回)

## 2017大樟会総会 記念講演

## 証券不祥事と法規制



講師 大阪経済大学副学長 小谷融 教授  
総会終了後、小谷融本学副学長による記念講演会が行われた。同氏は1975年に本学経営学部を卒業し、大阪国税局、大蔵省理財局・証券局、証券取引等監視委員会等を経て現職。本学理事・副学長・情報社会学部教授(財務会計論・ディスクロージャー制度論ほか)、博士(経済学)。

## ▼バブル時代とNTT株式の売出し

1980年代後半からのバブル崩壊の過程において、数多くの証券スキャンダルが起こりました。その不祥事が、人々の証券投資にどのような影響を与えたのかをみていきます。バブルと聞いて、まず私が思い出すのは、当時ブームとなったディスコ「ジュリアナ東京」、そして、東京証券取引所の「場立ち」です。現在は取り引きがコンピュータ化されてみられませんが、当時は、手のサインを使って投資家の売買注文をさばっていた人たち(「場立ち」)が、場内に立ちつくしていた風景が印象的でした。

1986年11月のNTT株売出しは、個人投資家の裾野を拡大させました。上場後の初値は、売り出し価格の約1.3倍。上場後の最高値は初値の約2倍、バブル末期の個人株主数は160万人を超えましたが、90年代初頭に株価は初値の約3分の1になりました。なお、日経平均株価は1989年末に、史上最高値3万8915円87銭となっています。

▼リクルート事件が投資家に与えたもの  
リクルート社が政財界の要人に、

子会社リクルートコスモスの未公開株を譲渡し、贈賄の罪に問われた「リクルート事件」。初めの譲渡は1株1200円程度で、上場後の初値は約5270円。政治家らに多額の収益をもたらしました。この事件を機に、政治資金規制法や政党助成法、小選挙区比例代表並立制が成立します。では、事件により証券制度はどのように変わったのでしょうか。

最近の新規公開株(IPO)銘柄の公募価格と初値を見ても、概ね公募額が低めに設定され、購入できれば利益が得られる傾向です。リクルート事件の頃は、その利益がさらに大きかった。また、株式の配分方法にも規制がなかったため、発行者が証券会社に対して譲渡先を指定したり、証券会社が資産家や手数料の多い顧客を優先して割り当てたりしていたのです。

事件の後、一般投資家に不公平感を与えないよう、IPOの応募は抽選となり、特定の人々への集中的配布が禁止されました。リクルート事件が一般投資家にもたらしたメリットと言えるでしょう。

▼小糸製作所対ビケンズ事件の顛末と影響  
次に、バブル期の企業買収につ

いて。1986年、日本土地グループがトヨタグループの豊田自動織機の株式を買い集め、トヨタ自動車などが時価を大幅に上回る価格で買い戻しました。これを見た麻布自動車が、トヨタ系の小糸製作所の株式を買い集めますが、トヨタ自動車は買い取りを断ります。そこで麻布自動車は、ブーン・コーポレーションのビケンズ氏に株式を譲渡したのです。小糸製作所とビケンズ氏の対立は続き、やがて日米の経済摩擦にまで発展しました。この「小糸製作所対ビケンズ事件」により、証券市場の規制として、大量保有報告書制度の導入、公開買付制度の改正が行われました。つまり、一定の基準を超えた場合は、いつ・誰が・どんな目的で・どれだけ株式を買い占めているか分かるよう、投資家に公

開する仕組みができました。株を買い集められた会社は、防衛策を考えられるようになったのです。

## ▼ライブドア、村上ファンドと法規制

ライブドア・堀江貴文さんと、村上ファンド・村上世彰さんについては、記憶に新しいところです。「ライブドア対ニッポン放送事件」や「村上ファンドによる阪神電鉄株の買い集め」によって、公開買付制度の適用範囲が拡大します。例えば、市場外で5%を超える株式を買い集める場合に適用されるようになりました。

最後に、同窓会支部の集まりに呼んでいただければ、具体的な事例を交えて楽しく分かりやすく講演しますので、機会がありましたらぜひお声掛けください。







# ZEMI-1

グランプリ

## Action

—変えられるのは未来と自分—

本学のゼミ対抗研究発表大会、第8回ZEMI-1グランプリ1st STAGEが2017年10月28日(土)、2nd STAGE・Final STAGEが11月4日(土)にそれぞれ行われた。

今回のテーマは「Action—変えられるのは未来と自分—」。毎年恒例となっているゼミ対抗イベントが今年もスタートした。

高レベルの  
激戦を制す！

# Tree

第1位

Tree

藤原忠毅ゼミ

# 優勝は 藤原ゼミ

2017.10.28 sat  
1st  
STAGE

第8回ZEMI-1グランプリ1st STAGEが2017年10月28日(土)午前10時30分から、E館2・5階の各教室で行われた。

今回は23ゼミから参加した59チームが参加。6ブロックに分かれて、渾身のプレゼンテーションを行った。

午前の部では、細川ゼミの「スリムリバー」が「ベトナム人技能実習生の問題と改善策」のテーマで、技能実習生の日本語能力を高める教育の必要性と施策を提案。小川ゼミの「白馬しらべ隊」が「外国人観光客で栄える村」のテーマで、長野県白馬村の集客増加のための方策や課題を提示。橋本ゼミの「チームカメちゃんズ」は「ギャンブルと大学生」のテーマで、パチンコを始める動機や分析によりギャンブル予防の方策を提示。山本・鈴木ゼミの「うふふファミリー」は「家族システム論研究」のテーマで、家族という社会集団についてグローバルゼミ・シオンなどのキーワードで考察。漆ゼミの「さきちゃんず」は「教育バウチャーは貧困を救う」高等教育はこう変わる」のテーマで、高等教育の無償化に着目し、その条件や財源などを考察。徳永ゼミの「徳ちゃんずPE」は「漆刷毛(うるしほけ)」消えた漆刷毛を追って」のテーマで、漆刷毛の歴史や現状から日本の伝統工芸品の重要性を訴えた。

「DNN.com」は「うわっ...私の「ミユク」、低すぎ...?」企業と学生のズレ」のテーマでコミュニケーション力に関する企業と学生の認識のズレを指摘し、傾聴力や伝達力を鍛える必要性と方策をアピール。相原ゼミの「相原ゼミA班」は「神戸スポーツ映画祭」若い世代の集客数向上を目指すして」のテーマで、若者を集客するための学生主催の融合イベントなどを提案。二本杉ゼミの「Two Cedars」は「おひとりさま」で「おひとり」のテーマで、おひとりさま行動をする人の属性を調査・分析。藤澤ゼミの「みなこ」は「最後まで自分らしくあるために安楽死」という考えを「のテーマで、安楽死を合法化するための許容要件などを考察した。

☆は「教育バウチャーは貧困を救う」高等教育はこう変わる」のテーマで、高等教育の無償化に着目し、その条件や財源などを考察。徳永ゼミの「徳ちゃんずPE」は「漆刷毛(うるしほけ)」消えた漆刷毛を追って」のテーマで、漆刷毛の歴史や現状から日本の伝統工芸品の重要性を訴えた。

☆は「教育バウチャーは貧困を救う」高等教育はこう変わる」のテーマで、高等教育の無償化に着目し、その条件や財源などを考察。徳永ゼミの「徳ちゃんずPE」は「漆刷毛(うるしほけ)」消えた漆刷毛を追って」のテーマで、漆刷毛の歴史や現状から日本の伝統工芸品の重要性を訴えた。



運営を支えて大活躍した学生スタッフ







第3位

Two Cedars~NEO~  
二本杉剛ゼミ

第2位

リベララ  
宮川敏治ゼミ

# 59チームが渾身のプレゼン

午後からのFinal STAGEでは、1st STAGEで1位になった6チームと2nd STAGEで1位になった2チームの計8チームが対戦。昨年の優勝チーム・宮川ゼミからトロフィーが返還された後、宮川ゼミの「はいさい」が「ダースヨー」部活してたさー? (みなさん部活してましたか?) のテーマで、部活動の経験がコミュニケーション力などのライフスキルに及ぼす影響について考察。宮川ゼミの「リベララ」は「Dream Come True」の「なりたい自分になる」のテ

2017.11.4 sat  
Final  
STAGE

ーマで、良いイメージの持つ力について検証。服部ゼミの「チーム伸びしろ」は「最初or最後 最善の選択」順序の違いが評価に及ぼす影響のテーマで、順序による好感度への影響を調査分析。善如ゼミの「とにかく明るい悠介」は「私たちの性格は、今まで変わる?」のテーマで、職場などの組織が上司の性格に影響を受けているとの仮説を検証。服部ゼミの「チームから紅」は「あなたはコイン何枚立てられる?」目標設定の違いが作業効率に及ぼす影響のテーマで、目標設定理論に基づいて成果と自信の関係を検証。藤原ゼミの「Free」は「Believe your choice」同調効果の光と影のテーマで、クイズに答えてもらう実験により同調効果のメカニズム・デメリットを検証した。プレゼンテーション後には審査員との質疑応答が行われ、言葉の



BOSSの左腕



チーム伸びしろ



チームから紅



はいさい



とにかく明るい悠介

チームめいすい君のお供たち



T-CANVers



チームKUMA3



チームもちもち



チーム五本杉

2017.11.4 sat  
2nd  
STAGE

第8回ZEM1ーグランプリの2nd STAGEは2017年11月4日(土)午前9時50分から、E館4・5階の各教室で行われた。2位・3位となった12チームが2ブロックに分かれて、ブラッシュアップされたプレゼンを披露。「E館」への出場権を巡り競い合った。

服部ゼミの「チームもちもち」は「うわっ...私...の選択肢、少なすぎ...?」の選択のパラドックスと選択の「チームKUMA3」は「広帯域超音波搭載シューズを用いた歩道空洞調査サービス」の「Team SHOES」のテーマで、審査の結果、二本杉ゼミの「Two Cedars~NEO」、善如ゼミの「BOSSの左腕」がFinal STAGEへの出場権を獲得した。

「Change」文章で変わる寄付者心理のテーマで、ネットで寄付を募る際の文章による心理的影響を調査分析。中村ゼミの「T-CANVers」は「ユーザプロフィールマッチングゲーム」の「YUPOTANA」のテーマで、属性と動機を考慮した情報発信サービスを提案。善如ゼミの「BOSSの左腕」は「後出しポジティブ1度」に言わない、待つ」のテーマで、どうすれば人を説得できるかを実験で検証。中村ゼミの「Team KUMA3」は「広帯域超音波搭載シューズを用いた歩道空洞調査サービス」の「Team SHOES」のテーマで、審査の結果、二本杉ゼミの「Two Cedars~NEO」、善如ゼミの「BOSSの左腕」がFinal STAGEへの出場権を獲得した。



デザイン担当：早瀬・松田



教職 KAWARABAN

大商学園高等学校(大阪府豊中市)の教諭として7年目を迎えた掛川亜葵先生。クラス担任も務め、来年3月、初の卒業生を送り出す。本学在学中は吹奏楽総部で活躍し、大商学園高等学校でも吹奏楽部の顧問を務める。常に生徒たちと積極的にかかわる教育姿勢が印象的。



生徒とかかわり、絶対的な安心感を  
持ってもらえる先生になりたい

高等学校教諭：掛川亜葵さん(経営学部 (77回卒))

取材に訪れたのは2017年11月28日(火)、2時限目の授業。科目は「財務会計Ⅱ」。プリントを配り、「簿記とは何か」といった基礎的な知識の学び直しから授業がスタート。そして簿記が誕生するまでの経緯や日本に伝わった歴史、簿記の必要性などについて説明。「起業家としても営業マンとしても、将来に備えて簿記のルールを理解しておく必要がある」と、簿記を学ぶメリットを強調。さらに、企業の決算書などが読めることで、就職を希望する会社、あるいは興味ある会社の「収益性、成長性、安全性の実態をチェックできる」と、簿記学習の実用性を解説した。財務会計という硬い科目にもかかわらず、掛川先生と生徒たちの賑やかなやり取りは、見ていて楽しく、教師として生徒たちの心をしっかりとつかみ、信頼されているのが感じられた。



担任については「担任になると生徒との距離が変わる。クラスは自分を映す鏡と言われたことがある。私はみんなと家族のように一緒に過ごしてきて、今は基本的に気を遣わないで過ごせる良いクラスになっていると思います」。心がけているのは、「生徒の近くまで踏み込み、ダメなこととはダメ、いいことはいいと言う。高校の3年間だけでなく、この先もずっと続いていく関係でいたいねと生徒たちにも言っています」。

「先輩の先生たちに育てていただいている」という掛川先生だが、教員として大切にしているのは、「挨拶やルールを守ることなど、人として社会人としての基本。生徒たちは、しっかりと見ているので」。先生として一番嬉しいことは「担任のクラスに関しましては、毎日、生徒がちゃんと登校してくれていること」。今後の目標は「この人に話せば何とかなるという絶対的な安心感を持ってもらえる先生になっていきたいですね」。

最後に、教員を目指す後輩に対して「在学中に、いろいろな立場、考えの人と出会っておいてほしい。私は吹奏楽総部の活動を通じて、いろいろなつながりができて、その人脈が、高校での実践的な授業などに役立っています。学生時代に沢山のつながりを作っておいて欲しいですね」とアドバイスしてくれた。



●2017年度 教員採用試験結果合格者●

2017.12.1現在

| 卒業年月          | 学部学科       | 氏名   | 採用自治体       | 教科           |
|---------------|------------|------|-------------|--------------|
| 2018年3月<br>予定 | 経営学部経営学科   | 勝田菜那 | 大阪府         | 高校商業         |
| 2017年9月       | 経済学部地域政策学科 | 濱田雅斗 | 神戸市         | 高校英語         |
| 2017年3月       | 経済学部経済学科   | 榎木悠太 | 大阪府         | 小学校          |
| 2017年3月       | 経営学部経営学科   | 中井隆文 | 大阪府<br>豊能地区 | 中学社会         |
| 2017年3月       | 経営学部経営学科   | 北倉柊哉 | 大阪府<br>豊能地区 | 小学校          |
| 2017年3月       | 人間科学部人間科学科 | 岡 祐輔 | 大阪府         | 高校保健体育       |
| 2016年3月       | 人間科学部人間科学科 | 横江顕彦 | 滋賀県         | 中学保健体育       |
| 2016年3月       | 人間科学部人間科学科 | 永吉 愛 | 大阪市         | 特別支援         |
| 2013年3月       | 経済学部経済学科   | 天見 翼 | 大阪府         | 小中<br>いきいき連携 |

※大学に報告のあった方のみ掲載

※その他に大阪府豊能地区 中学数学で合格報告者1名あり



学生目線のアイデアで  
企業の魅力を引き出す

大阪経済大学PBL(問題解決型学習)プログラム

大阪経済大学PBL（問題解決型学習）プログラム／日経BP総合研究所主催」が、2017年8月21日（月）～9月20日（水）の1ヶ月間にわたる株式会社モビリティランド。PBLのテーマとして、「国内のみならず世界中からより多くのお客様を集め『モビリティの魅力』を知ってもらうに？」が提示された。

第一歩と考え頑張ってください」と挨拶。続いて徳永光俊学長が「1~2年生を対象とした本学初のプロジェクト。仲間を作りチームワークを発揮して、社会に自分たちの能力をアピールしてほしい」と激励した。

役の原由紀子さんの誘導で、学年や得意分野などの多様性を意識した4チームが結成された。

■第2・3回  
(中間報告会)

8月31日(木)～9月  
1日(金)に行われた1泊  
2日の現地視察を経て、

第6回  
(最終報告会)

9月15日(金)のリハールを経て、同20日(水)には、株式会社モビリティランドにおいて、プログラムの仕上げとなる最



終発表が行われた。大学からバスで現地向けて出発した学生たちは、「悔いが残らないよう頑張ります」「失敗を怖れず楽しみたい」「学生らしい元気なプレーゼンにしたい」「堂々と発表して楽しい思い出にしたい」と意欲満々。到着した現地会場



## My Hands



チー△F

## 各チームのリーダーのコメント

- 「My Hands」リーダー 上羽伸さん(経済学部)  
練習してきたことをプレゼンに反映できたと思う。  
全員の意見のすりあわせは難しかったが、学年  
の枠を越えて話せたのが嬉しかった。参加したこ  
とでタイムスケジュールの大切さを学べた。
- 「チームCCC」リーダー 石橋真衣さん(経営学部)  
プレゼンでは時間配分が上手いかなかった  
が、楽しくアピールできたと思う。みんなが仲  
良く集まって考える作業は楽しかったし、自分  
がチームでどうあるべきかを考える機会になっ  
た。
- 「チームP」リーダー 笹野沙八佳さん(経営学部)  
音声流れないなどのハプニングはあったが、  
元気に楽しくプレゼンできた。結果に満足して  
いる。これまでは前に出るタイプではなかった  
が、今回リーダーとして頑張れて楽しかった。
- 「Teamからあげ」リーダー 奥村祐太さん(経営学部)  
みんなが全力を出したことで成し遂げられた。意  
見の集約に時間がかかったが、ひとつのことに挑  
むチーム力の素晴らしさを実感できた。自分の  
言いたいことも言えたので参加して良かった。

で最後の調整をした後、チームMy Handsは「出会いとモビリティ」のテーマで、出会いと移動の楽しさ、若者の笑顔が、

9月11日(月)のワークショップ(本学キャンパス)では、4チームが視察後、にまとめあげた内容を中心発表。ほとんどの受講生にとって初めてのプレゼンテーションだったにも関わらず、堂々とした発表ぶりに大きな拍手が送られた。またプレゼン

終了後には、各チームの良かった点や改善点などの感想を山田氏が述べられた。その後、ファシリテーターの原氏がプレゼンテーションにおけるストーリーの作り方などを解説し、会場全体に響く声でプレゼンできるような全員で発声練習を行った。



Teamからあげ



チー△CCC

ラボを提案。チームCC  
Cは「ペイントで伝える  
モビリティの魅力／海外  
に日本を伝える」のテ  
ーマで、誰もが楽しめる  
屋内アトラクションや園  
内移動のための列車を提  
案した。

プレゼン終了後、株式  
会社モビリティランドの

皆様より「ヒントになるアイデアも多く感動した。若い目線での新鮮な意見を今後の参考になりたい」と講評を頂いた。今回のPBLは受講生24名全員が脱落せずに最終日を迎えており、現地に駆けつけた徳永学長も「1ヶ月間のプログラムを頑張りぬき、素晴らしいプレゼンしてくれた。若い感性を今後も持ち続けて欲しい」と賞賛した。



東京2020応援  
文化オリンピック

Daikaidai Move For 2020

# ダイケイダイから、 熱くなれ！

地域のみなさんに文化、  
スポーツの楽しさを  
届けよう。

2020東京五輪まであと数年。そのなかで、オリンピック・パラリンピックをスポーツと文化の祭典として捉え、多彩な文化活動で五輪開催の機運を盛り上げようと、全国各地で「文化オリンピック」が繰り広げられている。本学も文化オリンピックの風を関西から巻き起こそうと、2017年11月18日（土）「Daikaidai Move For 2020」を大隅キャンパスD館で開催した。

## 2020に向けた、

### 関西の動き、財界の

#### サポートを紹介

第一部では、本学の学生が制作したオープニングのムービーが披露された後、徳永光俊学長ならびに共催の大阪市経済戦略理事 芳田隆氏が開会の挨拶を述べた。引き続き、パナソニック株式会社の東京オリンピック・パラリンピック推進本部戦略企画部長である

俊学長ならびに共催の大阪市経済戦略理事 芳田隆氏が開会の挨拶を述べた。引き続き、パナソニック株式会社の東京オリンピック・パラリンピック推進本部戦略企画部長である

櫻井理史氏が基調講演「オリンピック・パラリンピック等経済界協議会の活動」を行い、日本の企業がオールジャパンで臨む五輪成功に向けた諸活動について紹介した。

## 関西ならではの文化発信 について討論

続いてのプログラムは、パ



パネルディスカッション

ネルディスカッション「関西から盛り上げるでえ、オリンピック・ムーブメント」。スポーツマネジメントの研究者である相原正道教授（人間科学部の司会進行）、大阪市経済戦略局文化部長 松浦功氏、神戸スポーツ映画祭！実行委員 長塚田義氏、本学客員教授で

ミュージションの松前公高人間科学部客員教授、弦間一雄教授（人間科学部）が、それぞれの視点から関西の文化発信の現状について語った。

盛況のうちに終わったパネ

ルディスカッションに続き、人間科学部長 福井孝明教授の挨拶で第一部を締めくくった。



ポッチャでパリンピック体験



フリースタイルフットボール



ヤミ・ヨミ・キカセ

誰でも気軽に楽しめるアート、スポーツ、健康イベント

午後からの第二部には、地域の小学生や親子さん対象のスポーツ、文化系イベントや、高齢者の方に向けた健康関連セミナーなど、盛りだくさんなプログラムが開催された。

D館1階ホールでは本学教員や学生、外部講師などによるスポーツ体験を実施。パラリンピック競技の「ポッチャ」のほか、サッカーボールによるパフォーマンス競技「フリースタイルフットボール」のワークショップや、2



クルディック・ウォークを体験しよう！



ぐるぐるアニメーション

本学の講演も開催。看取り看護師の立場から死との向き合い方について話された。

本学教員および学生による文化系ワークショップは、無料アプリで作曲に挑戦する「スマホ音楽しよう」や、手作りのアニメーション体験「ぐるぐるアニメーション」

目隠しをして朗読を鑑賞する「ヤミ・ヨミ・キカセ」などが実施された。あいに雨湿りの一日だったが、文化・スポーツを通じ、幅広い年代の方が楽しく交流する姿が見られた。

## 17歳からのメッセージ表彰式

第17回高校生フォーラム

# 今の想いを伝え残していく

左から堀之内さん、岩崎さん、徳永学長、下さん、土橋さん



大阪経済大学 高校生フォーラム  
「17歳からのメッセージ」表彰式



岩下さん

大阪経済大学第17回高校生フォーラム「17歳からのメッセージ」表彰式が、2017年11月26日（土）、午後1時～3時まで、D館12教室・80周年記念ホールで行われた。今回のキヤッチコピーは「想いは、書けば、残る」。全国368校から29564作品の応募があり、厳正な審査の結果、150作品を選考。グランプリには、テマ「今までの自分、これからの自分」部門



土橋さん

から、土橋由芽さん（山梨県立吉田高等学校）の「作詞・作曲 父ちゃん」と、岩下愛さん（大阪府立たいせん聴覚高等支援学校／大阪府）の「生きた言葉を声で」が、テマ2「人とのふれあいの中で・・・」部門から、岩崎正孟さん（東山高等学校／京都府）の「手をなげば」が、テマ3「今、これだけは言いたい」（自由課題）部門から、堀之内恵志さん（鹿児島市



堀之内さん

立鹿島玉龍高等学校／鹿児島県）の「かわいいG」が選ばれた。また学生審査員には、テマ3部門で銀賞を受賞した桂妃菜さん（鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校／鹿児島県）の「親とけんかの中にあなただけが選ばれる。」が選ばれた。

表彰式には高校生39名が参加した。徳永光俊学長が「17歳からのメッセージ」も今年で17回目を迎える17歳になった。読み返してみると17年間の変化はあるが、若い命の輝きやエネルギーは変わっていない。そして、つながりの中で生き、それに感謝していると感じる。『若さ』と『つながり』というダイヤモンドを、さらに光り輝くものにしてほしい」と挨拶。続いて読売新聞大阪本社編集委員の川西勝氏が審査委員を代表して、「皆さんは日常的な体験を題材としてキヤッチできる独自のアンテナを持っている。作品にはオリジナリティも大切。ハッとさせられるような視点も期待している」と講評。徳永学長から、グランプリ、金賞、銀賞の受賞者に表彰状が授与された。また学生審査員賞は、審査にあたった三浦絵梨花さんと安阪雄大さん（ともに経済学部3年生）が表彰を行った。

懇親会では、進研アドマナビジョンブック編集長の原美教授（経済学部）が「17歳の一瞬を文章として留めた作品に、いつも自分の人生を見直す力を与えてもらっている。皆さんも自身の作品を読み返すことが、その時々の人生の力になると思う」と講評し懇親会が開きとなった。



岩崎さん

最後に審査委員長の近藤直美教授（経済学部）が「17歳の一瞬を文章として留めた作品に、いつも自分の人生を見直す力を与えてもらっている。皆さんも自身の作品を読み返すことが、その時々の人生の力になると思う」と講評し懇親会が開きとなった。









OSAKA  
**5GO!**  
WALK!  
ウォーク



## 参加学生VOICE



三鬼克斗さん  
(経営学部1年生)

硬式野球部の一員として、チェックポイント係を務めました。防災については今まで意識したことはなかったけれど、大学近辺に一人暮らしの身としては、町の避難場所を知っておくのはとても大切なことだと感じました。



金澤美奈さん  
(経営学部1年生)

アメフト部では、選手が20km、私たちマネージャーは5kmに挑戦しました。普段歩くのは、家から最寄り駅の間くらいですが余裕でした!こうしてのんびり町の風景を見ながら歩くのって良いですね。



小川祐司さん  
(経済学部2年生)

20kmをなめていました…。ラグビー部なので、体力には自信があったんですが、しんどかった。練習の方が楽ですよ。でも、防災のことを考えるきっかけにもなりましたし、楽しかったです。



羽場智さん  
(経営学部3年生)

スタッフとして5kmを歩きましたが、いろんな人と話しができて良かったです。こういうイベントは社会的な意義もありますが、硬式野球部が日頃お世話になっている大学に恩返しできる機会でもあるんです。年2回ぐらいの開催でもいいんじゃないかなと思いました。

地域の方々が  
「かまどベンチ」で  
お茶のサービス♪



平成28年12月に瑞光寺公園に設置された「かまどベンチ」に初点火した。普段はベンチだが、災害時には「かまど」に変身して、炊き出しや暖をとるのに重用する。  
今回は町内会の方が温かいお茶を振舞ってくれ、ウォーク参加者には憩いのひと時となった。

実際に歩いてみて  
いかがでしたか?



毎日通勤時に自転車に乗っているので余裕だと思っていたのですが、最後の1kmはさすがに疲れました笑。少し寒かったです。

防災という観点では  
いかがですか?

避難場所を巡りながら  
要所に置かれた解説のプ



ラカードなどを見てもう  
うことで、また、東淀川  
区役所様と協賛企業様  
の協力もあり、皆さんの  
防災意識を高められたの

本学の教職員、学生の尽  
力のおかげで、皆さんの  
参加者などこれだけ多く  
の方に集まって頂けた。  
改めて感謝を申し上げます。



ではないでしょうか。  
開催に際して、沢山の  
方の協力がありました。

産官学のコラボレーシ  
ョンのもと、地域のボラ  
ンティアの方、ウォーク  
参加者などこれだけ多く  
の方に集まって頂けた。  
改めて感謝を申し上げます。

学長にお話を  
聞いてみました!

## 防災意識の向上と学生の 活躍を見てもらう機会に

メインイベントである「防災ウォーク」は、東淀川区の災害時避難所でもある大阪経済大学をスタート・ゴールとし、川沿いを中心に防災施設等を巡りながら歩く。コースは、5km、10km、20kmの3つ。自身の体力に合わせて750名を超える一般参加者、学生が挑んだ。また、学生は運営スタッフとしても奮闘。5kmに挑戦した本学の徳永光俊学長も、目を細める活躍ぶりだった。



# 「つながる力」を実感

産官学・地域と

学長も参加!  
学生も大活躍!





## 創部以来初の単独公演に挑戦



## チアリーダー部

## 時に華麗に、時に力強く!!

華やかな演技で見る人を魅了するチアリーダー部JANUSが、2017年12月9日(土)、本学A館フレアホールで創部以来初の単独公演を開催。公演へのカウントダウンが進む中、練習の様子や公演に向けての心構えを紹介する。(※11月16日に取材しました)

## 新入部員が増え、レパートリー拡大

チアリーダー部の主な活動は、体育会系部活動の試合の応援、また大学祭などの大学行事にも欠かせない存在だ。4月の新入生歓迎イベントでは、吹奏楽総部とのコラボでステージを盛り上げた。キャプテンの津和崎玲子さん(経済学部3年生)は「週4回の全体練習の他、

かせない存在だ。4月の新入生歓迎イベントでは、吹奏楽総部とのコラボでステージを盛り上げた。キャプテンの津和崎玲子さん(経済学部3年生)は「週4回の全体練習の他、

現在部員は26名。ほぼ半数が1年生。「今年度は部員が増えたので、念願の単独ステージができる!」と考えた津和崎さ

教授の空き時間を使ってダンスや筋トレ、バランスを強化するトレーニングを続けています。学業との両立については、ゼミの先生や仲間が気を付けてくれています」と話す。

授業の空き時間を使ってダンスや筋トレ、バランスを強化するトレーニングを続けています。学業との両立については、ゼミの先生や仲間が気を付けてくれています」と話す。



津和崎主将(経済学部3年生)は「今年度は部員が増えたので、念願の単独ステージができる!」と考えた津和崎さ

一人ひとりが主人公 招聘された一人である宮村陽子コーチは、海外でもチアリーディングの指導経験のあるチアの専門家。「はじめは彼女たちの控えめな様子を見て、『本当に熱意があるのかな』と疑いました。でも、教えたことをどんどん吸収して上達していくのにはびっくり。目の輝きも変わっていきました(宮村コーチ)。

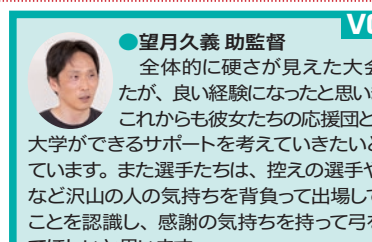
一人ひとりが主人公 招聘された一人である宮村陽子コーチは、海外でもチアリーディングの指導経験のあるチアの専門家。「はじめは彼女たちの控えめな様子を見て、『本当に熱意があるのかな』と疑いました。でも、教えたことをどんどん吸収して上達していくのにはびっくり。目の輝きも変わっていきました(宮村コーチ)。



単独ステージは普段とは違うチアリーダー部の魅力をアピールする絶好のチャンス。スポーツ応援の様子のほか、KPOPやヒップホップなどに乗せてチアの多様な魅力をアピールする。宮村コーチも「チアリーダーは全員が主役。ステージでは思い切り楽しんでほしい」とエールを送っている。



宮村コーチ



単独ステージは普段とは違うチアリーダー部の魅力をアピールする絶好のチャンス。スポーツ応援の様子のほか、KPOPやヒップホップなどに乗せてチアの多様な魅力をアピールする。宮村コーチも「チアリーダーは全員が主役。ステージでは思い切り楽しんでほしい」とエールを送っている。

●望月久義 助監督 全体的に硬さが見えた大会でしたが、良い経験になったと思います。これからも彼女たちの応援団として、大学ができるサポートを考えていきたいと思っています。また選手たちは、控えの選手や家族など沢山の人の気持ちを背負って出場していることを認識し、感謝の気持ちを持って弓を引いてほしいと思います。

●中田梨花 主将(人間科学部4年生) 部員全体の技術力や意気込みは高い状態で臨めたと思いますが、本番で出切るメンタル面が弱く、残念な結果になってしまいました。自分と向き合い突き詰め、良い結果を残せるよう、主将として努力していきたい。部員全体の仲の良さに甘えず、そのチームワークを勝つために活かしていきたいです。

第65回全日本学生弓道選手権大会(全日本学生弓道連盟)が、2017年8月12〜14日、神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸で行われ、13日(日)の女子団体戦予選(3人1チーム 1人4射・計12射制限時間7分)に、本学弓道部(女子)の中田梨花さん(人間科学部4年生)、野間ほな(経済学部3年生)、大橋加奈(人間科学部3年生)が出場した。

第65回全日本学生弓道選手権大会(全日本学生弓道連盟)が、2017年8月12〜14日、神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸で行われ、13日(日)の女子団体戦予選(3人1チーム 1人4射・計12射制限時間7分)に、本学弓道部(女子)の中田梨花さん(人間科学部4年生)、野間ほな(経済学部3年生)、大橋加奈(人間科学部3年生)が出場した。

## ラクロス部



## 101%で挑む戦い



キープレーヤーを封じ足を使った攻めが奏功

「101%を出し切る」をスローガンに、今年「2部残留、過去最高順位」を掲げてきたラクロス部が窮地だ。関西学生リーグで惜敗が続いており、選手たちの目の色が変わっている。

キープレーヤーを封じ足を使った攻めが奏功

「101%を出し切る」をスローガンに、今年「2部残留、過去最高順位」を掲げてきたラクロス部が窮地だ。関西学生リーグで惜敗が続いており、選手たちの目の色が変わっている。

攻めているかと思えば、次の瞬間には防戦になっている。局面が瞬く間に豹変していく様子は、ラクロスというスポーツの魅力でもある。恐ろしさで

攻めているかと思えば、次の瞬間には防戦になっている。局面が瞬く間に豹変していく様子は、ラクロスというスポーツの魅力でもある。恐ろしさで

攻めているかと思えば、次の瞬間には防戦になっている。局面が瞬く間に豹変していく様子は、ラクロスというスポーツの魅力でもある。恐ろしさで



第28回関西学生ラクロスリーグ戦 第4節 9/9(土) 大阪経済大学 4 前半 3 後半 8 7 近畿大学 11

第28回関西学生ラクロスリーグ戦 第4節 9/9(土) 大阪経済大学 4 前半 3 後半 8 7 近畿大学 11

第28回関西学生ラクロスリーグ戦 第4節 9/9(土) 大阪経済大学 4 前半 3 後半 8 7 近畿大学 11

第28回関西学生ラクロスリーグ戦 第4節 9/9(土) 大阪経済大学 4 前半 3 後半 8 7 近畿大学 11

第28回関西学生ラクロスリーグ戦 第4節 9/9(土) 大阪経済大学 4 前半 3 後半 8 7 近畿大学 11

## 全国大会で

## 大健闘



第65回全日本学生弓道選手権大会(全日本学生弓道連盟)が、2017年8月12〜14日、神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸で行われ、13日(日)の女子団体戦予選(3人1チーム 1人4射・計12射制限時間7分)に、本学弓道部(女子)の中田梨花さん(人間科学部4年生)、野間ほな(経済学部3年生)、大橋加奈(人間科学部3年生)が出場した。

第65回全日本学生弓道選手権大会(全日本学生弓道連盟)が、2017年8月12〜14日、神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸で行われ、13日(日)の女子団体戦予選(3人1チーム 1人4射・計12射制限時間7分)に、本学弓道部(女子)の中田梨花さん(人間科学部4年生)、野間ほな(経済学部3年生)、大橋加奈(人間科学部3年生)が出場した。

第65回全日本学生弓道選手権大会(全日本学生弓道連盟)が、2017年8月12〜14日、神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸で行われ、13日(日)の女子団体戦予選(3人1チーム 1人4射・計12射制限時間7分)に、本学弓道部(女子)の中田梨花さん(人間科学部4年生)、野間ほな(経済学部3年生)、大橋加奈(人間科学部3年生)が出場した。

第65回全日本学生弓道選手権大会(全日本学生弓道連盟)が、2017年8月12〜14日、神戸総合運動公園グリーンアリーナ神戸で行われ、13日(日)の女子団体戦予選(3人1チーム 1人4射・計12射制限時間7分)に、本学弓道部(女子)の中田梨花さん(人間科学部4年生)、野間ほな(経済学部3年生)、大橋加奈(人間科学部3年生)が出場した。